

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 19 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530943

研究課題名（和文） 国語科教育における宮沢賢治の受容—史的展開と教材としての可能性—

研究課題名（英文） A Study on Reception of Kenji Miyazawa in Japanese Education: The History and Possibility as the Teaching Materials

研究代表者

中地 文 (NAKACHI AYA)

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70207819

研究成果の概要（和文）：国語科教育における宮沢賢治の文学の受容について、従来の研究を踏まえて今回改めて調査したところ、教科書への採録は 1943 年発行の満州開拓青年義勇隊訓練本部編『国語 下の巻』から始まることなどが新たに判明した。また、戦後に教材化が推進された背景や、当時の教材観も明らかにすることができた。賢治の文学の教材化の歴史は、国語科教育の理論的・方法的展開および社会思想とも概ね対応していることを確認し、今後の教材活用に展望を得た。

研究成果の概要（英文）：With investigating reception of the literature of Kenji Miyazawa in the Japanese education, it became clear newly that the transcription to a textbook began from "KOKUGO(the national language)second volume" of published in 1943. In addition, it was able to clarify the background where literature of Kenji was made the teaching materials positively. The history as the teaching materials of the literature of Kenji with the development of the theoretical method of the Japanese education and the social thought. From these findings, I got the prospects from the use as the teaching materials of the literature of Kenji.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：日本文学・児童文学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教育学・国語科教育・宮沢賢治・文学教材・受容史・教科書・石森延男・谷川徹三

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 宮沢賢治の文学が学校教育で使用される教科書に採録されたのは、1946年に刊行された暫定教科書『初等科国語 四』からであるといわれている。それ以来、現在まで途絶えることなく教科書に登載され続けてきて

おり、採録期間の長さ、掲載回数の多さで宮沢賢治を超える作家はいない。このことから、賢治文学は日本の国語科教育の思想と響きあう側面をもつと考えられるが、それは具体的にはどのような面なのであろうか。また、長年教科書に掲載されながらも、教育現場で

は「難教材」と評されることがあるが、それはなぜなのか。これらの問題をはじめ、国語科教育界における賢治受容の実態とその意味の究明は、まだ十分に行われていないと見受けられる。

(2) 教科書教材についての調査・研究は、牛山恵(1988)の著作をはじめ、すでにいくつかある。しかし、教材化を支える思想の変遷とその意味はまだ論じ尽くされていない。加えて、教材本文の特徴の検討や、教材論・授業実践記録の調査・分析にまで踏み込んだ研究は立ち遅れている。このような状況のもと、申請者は2004年に「小学校国語教科書の宮沢賢治」をまとめて以来、研究を進め、2007年には論文「教育面における「賢治像」の形成」を発表した。この論文では、教材本文の分析も含めて教育面における賢治受容の特徴を論ずることを試みたが、教材論等の収集・検討や、教材化の背景の考察までは手を広げることができなかった。

(3) そこで、教材本文および教材論の検討や、授業実践記録の収集・調査も幅広く行ったうえで、国語科教育における賢治受容をその背景も含めて総合的に研究したいと考えた。それを通して、国語科教育の思想と方法を見つめ直すとともに、教育を通して培われる日本人の教養形成のあり方を探ることでもできると思った次第である。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、小学校・中学校・高等学校の国語科における宮沢賢治の文学の教材化とその授業実践の史的展開を調査・分析することを通して、賢治文学の教材化を支える思想の変遷と意味、および授業の傾向と問題点を明らかにするものである。

(2) (1)の成果を踏まえて、教材／学習材としての賢治文学の特徴と可能性を探ることも目的とする。

(3) 研究の進行と同時に、宮沢賢治関係教材(教材論・授業実践記録も含む)のデータを取りまとめ、分類・整理して、データベースの作成も行う。

(4) 研究成果発表を通して、賢治作品の教材研究・授業構想・指導方法の検討に役立つ知見を教育現場に提供することも目指す。

(5) 最終的には、国語科教育界における賢治受容の実態とその意味するところを究明し、それを国語科教育の思想や文学教材のあり方を問い直すことへとつなげる。

## 3. 研究の方法

(1) まず、国語科教育界における賢治受容の実態を把握するための調査・資料収集を次のとおり行う。

① 教科書採録状況の調査を、教材本文の調査・分析も含めて行う。

② 教科書採録をめぐる発言等、教材化の背景にかかわる資料を収集する。

③ 教材論や授業の手引き、授業実践記録等を収集・整理する。

(2) (1)における教科書採録状況の調査結果や収集した資料については、書誌事項を整理してまとめ、「データベース」の作成につなげる。

(3) 次に、(1)の作業結果からみえてくる教材や授業の特徴とその変遷を明らかにし、国語科教育史や社会状況、文学・児童文学・文化面における同時代の賢治受容に照らして変遷の意味を考察する。

① 教材については教材化された作品の傾向や、教材化の方法、教材の位置づけ、教材化を支える思想等を中心に分析・整理し、考察する。

② 教材論については、教材観、賢治文学観の特徴を捉えたうえで、どのように教材解釈が行われているのか確認・整理する。

③ 授業実践記録については、授業のねらいや教材観、発問構成、児童・生徒の反応、教育成果等を中心に整理し、考察する。

(4) (3)の分析・整理・考察を踏まえて、賢治文学の教材化と授業実践の傾向・問題点を明らかにし、そのうえで教材／学習材としての賢治文学の特徴と今後の可能性について考える。その際、小学校・中学校の教員とも意見交換をする。

## 4. 研究成果

(1) 小学校・中学校・高等学校の国語科における宮沢賢治の文学の教材化とその授業実践の史的展開の調査については、授業実践の収集に課題が残ったものの、教材化に関してはほぼ予定通りに調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

① これまで昭和21年11月に発行された暫定教科書『初等科国語 四』への「どんぐりと山ねこ」(題名は教科書通り)掲載が賢治作品の教科書搭載の最初であると

されてきたが、昭和 18 年 7 月発行の満州開拓青年義勇隊訓練本部編『国語 下の巻』に「雨ニモマケズ」が掲載されていることが新たに判明した。

② 教材化全体の傾向としては、いずれの校種においても戦後初期には人生論的テーマの作品の教材化が多く、1970 年代の後半から独特の表現や構成が注目される作品の教材化が進んでいることが確認できた。

③ 中学校の国語科教科書については 1940 年代後半から 1950 年代には数多くの賢治作品が教材化されて掲載されているものの、その後は掲載数が減少している。

④ 近年の新しい学力観に対応した賢治文学教材は、まだ十分に開発されていない。

(2) (1) の調査を踏まえて、国語科教育における賢治の文学の教材化の背景については、次の点が明らかになった。

① 暫定教科書および第六期国語科教科書への採録を実際に進めたのは石森延男であるが、教科書編纂委員だった谷川徹三の影響力が大きかったとみられる。

② 教材化全体の傾向としては、国語科教育の理論と方法の史的展開と基本的に対応している。

(3) 賢治関係教材の教材論については、収集した資料を整理・検討した結果、次のことが明らかになった。

① 初期の教材には人生論的傾向が強いにもかかわらず、戦後最初期の教材研究の手引きにおいて文部省で小学校の教科書編集を実際に担当した人々は、「どんぐりと山猫」を「在来の日本童話のように、勧善懲悪とか、因果応報等の道德思想がはっきりしていない」作品として捉えていた。

② 「雪渡り」については創作の背景が教材論で語られることは少ないが、「やまなし」の教材論には伝記的背景にふれているものが多く、教材によって教材論の傾向があると認められる。

(4) (1) の調査結果にもとづく宮沢賢治関係教材（教材論・授業実践記録も含む）のデータベースの作成については、既存の国語関係教材データベースのあり方を調査して枠組みを定め、国語科教育の観点からの有用性を高めるために現職教員から意見をもらう

ところまで作業が進んだ。今後、データ入力をさらに進めるとともに、公開に向けて手直しを行っていく予定である。

(5) 教材化の思想につながる賢治文学の受容史に関しては、教育面以外にも着目して調査・検討を行い、考察を進めた結果、以下の成果を得た。

① 映画「風の又三郎」の公開、詩の朗読運動での「雨ニモマケズ」の活用等の影響で、戦中に賢治文学の普及が進んだ様子を確認した。

② 児童文学や子どもの読書教育の分野でも、賢治文学への注目は戦中に進行し、子どもが好んで読む作品に賢治童話が挙げられるようになっていた事実が判明した。

③ 児童文学の分野では、戦後の早い時期に戦中の「雨ニモマケズ」の受容への批判が描かれたが、国語科教育の領域では戦中の活用は問題視されずに、「雨ニモマケズ」の教材化が戦後も行われたことが確かめられた。

④ 戦前から演劇化・映画化が賢治文学の普及に大きな役割を果たしていること、戦後は演劇面での受容が飛躍的に進展していることなどが明らかになった。

(6) 教材／学習材としての賢治文学の可能性をめぐっては、近年の新しい学力観に対応した教材開発を視野に入れて、伝記教材の比較読みの有効性等を現職教員と討議した。

(7) 以上の研究成果については、3 年の間に、国内の学会・研究会において 2 回、口頭発表の機会を得た。そのうち、戦後の国語科教育における宮沢賢治の受容を取り上げた 2012 年の発表については、学会支部の会報においてテーマの意義が評価され、今後の展開を期待するという感想が掲載された。

(8) 研究成果は、論集収録の論文、事典の項目執筆、資料目録としても公表する機会を得た。資料目録に関しては、これまでにデータが十分に整理されることになかった項目の調査についての労を評価する反響があった。

(9) 今後の展望としては、次のとおり、残された課題と向き合うことがまずは挙げられる。

① 昭和 18 年 7 月発行の満州開拓青年義勇隊訓練本部編『国語 下の巻』に「雨ニモ

マケズ」が掲載されたことについては、事実の確認はしたが、教材化の背景や受容の状況など確認できていない。この部分をさらに深め、成果を発表したい。

② 賢治文学の教材化の全体的傾向や教材論・授業実践記録の傾向についても、研究成果を発表していない部分がある。論文化を試みるとともに、現職教員講習に成果を還元していく。

③ 宮沢賢治関係教材（教材論・授業実践記録も含む）のデータベースは、国語科教育の観点からの有用性を高めるための手直しをさらに行い、活用できるものへと仕上げる予定である。

④ 賢治文学の受容史に関しては、特に高度経済成長期以降の展開について、まだ調査・検討の余地がある。

⑤ 教材／学習材としての賢治文学の問題点・可能性に関する研究成果をもとに、新たな教材開発を行うことや、賢治作品の教材研究・授業構想・指導方法の検討に役立つ知見を教育現場に提供することも残された課題である。

(10) 今回の研究テーマを今後さらに発展させる方向性をめぐっては、次のようなことが考えられる。

① 今回の研究成果を材料とし、国語科教育における賢治文学の受容と文学教材論の展開との関係の考察を深め、文学教材のあり方を問い直す。文学教材論はすでに各種提示されているが、宮沢賢治を素材にしてまとめることで、文学教材論の展開や特色をより明快に整理・提示することができるだろう。

② 戯曲教材等、教材のジャンルを絞って、そのジャンルの教材史の中に賢治文学教材を位置づけて、教材化の有効性を問い直すとともに、各教材ジャンルの意義と可能性に関する考察を深める。戯曲教材は現代の教育課題との関係から注目される分野であり、その成果は教育改善に生かせるだろう。

③ 戦後国語科教育の出発期に、小学校・中学校・高等学校の教科書に賢治文学が教材として掲載されたことの意味を問い、教科書作成に直接かかわった石森延男の戦中から戦後への展開を検討しながら、日本の戦後国語科教育の思想と方法を問う。国語科教育史における石森延男の研究はす

でにある程度行われてきているが、宮沢賢治を切り口にして新たな成果を上げることができるのではないかと。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

① 中地 文、宮沢賢治をめぐる人々、日本近代文学会東北支部編『東北近代文学事典』（勉誠出版）、査読無、2013、pp. 726-736

② 中地 文、宮澤賢治「雪渡り」考—法華文学としての童話の試み—、プラット・アブラハム・ジョージ、小松和彦編『宮澤賢治の深層—宗教からの照射—』（法蔵館）、査読無、2012、pp. 173-200

③ 中地 文、戦前・戦中の享受・評価、天沢退二郎・金子務・鈴木貞美編『宮澤賢治イーハトヴ学辞典』（弘文堂）、査読無、2010、pp. 283-285

④ 中地 文、ライフワークの発進・童話制作のはじまり、天沢退二郎・金子務・鈴木貞美編『宮澤賢治イーハトヴ学辞典』（弘文堂）、査読無、2010、pp. 523-524

⑤ 中地 文、宮澤賢治関係演劇上演記録一覧／宮澤賢治関係展覧会・開催記録一覧／宮澤賢治関係映像（映画ほか）一覧、天沢退二郎・金子務・鈴木貞美編『宮澤賢治イーハトヴ学辞典』（弘文堂）、査読無、2010、pp. 612-631

〔学会発表〕（計2件）

① 中地 文、戦後初期国語科教育と宮沢賢治、日本近代文学会東北支部平成24年度夏季大会、2012年7月7日、岩手県民会館

② 中地 文、児童文学と民間伝承—賢治童話の場合—、国際日本文化研究センター共同研究「宮澤賢治の世界観の再検討」第4回研究会、2011年1月9日、国際日本文化研究センター

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

中地 文 (NAKACHI AYA)

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70207819